

## 序に代えて

勝 義 孝

川井銀之助先生の切なる御懇望黙し難く遂に筆を執ることになりました。就いては昭和廿七年九月一日附の記念事業趣意書、十一月二日の創立八十周年祝典に於ける式辭、十一月三日の物故職員慰靈祭に於ける祭文は拙文であります。私直作でありますので、序に代えて此處に載せさせていただきます。「本學八十年史」が編纂委員長川井銀之助教授の熱と誠のこもつた御盡力により漸く上梓の運びに到りましたことを心から祝福し、同教授に深甚なる敬意と謝意を表する次第であります。

京都府立醫科大學創立八十周年  
記念事業寄附金募集 趣意書

明治五年本學が京都府假療病院として發祥してから此處に八十年の星霜を閲し、五千名に垂んとする同窓の愛校心と百八十萬京都府民の協賛に支えられ今春本學は新制大學移行への第一歩を踏み出した。醫學校、醫學専門學校、醫科大學、女子専門部の出身者はもとより大學並びにその關係者一同は本學八十周年について心からなる慶祝の念を寄せている。此の秋に當り本學の充實を更に一層強化して名實共に完備した大學に推進しようとする一同の熱意は凝集して本學創立八十周年記念事業委員會の結成となり、各年度卒業生よりの一名づつの代表者、學友會各地支部の役員、教授會の全員、助教講師團の代表者、助手副手會の代表者、事務局長等が委員としてこれに携わり事業の遂行にあたることになつた。願れば本年一月下旬本學で開かれた近畿同窓有志の懇談會以降、東京、京都、大阪、兵庫、奈良、滋賀、徳島、香川、高知、愛媛等の各地の學友會支部の會合、七月下旬本學で催された各年度卒業生代表者の集會等に漲つた雰圍氣を體して遂に本學創立八十周年記念事業委員會がこの八月末日に結成されるに到つたのである。(委員會の規約委員の名簿等は別紙に印刷して同封した)

本委員會は記念事業として本學施設（綜合講堂その他）及び學友會館の擴充、本學史料の編纂、八十周年祝典行事並びに獎學育英制度等を行うこととなつた。就中綜合講堂は創立八十周年祝賀の意を含んで京都府民から大學に贈られたものであつて、これの整備には府民の厚意に應える同窓並びに係者の暖かい心持が期待せられている。これらの記念事業を遂行するには尠くとも總額壹千萬圓の募金を必要とするので（従つてこれを現存卒業生に平均して割り當ててみると一人當り三千圓になる）これだけは是非達成したい念願である。本事業企畫の實行に當つては慎重を期し皆様の御寄附を最も有効に且つ最も適切に活用して意義あらしめたい所存である。

本學同窓、關係者並びに本學に好意を寄せられる方々は委員會のかかる意圖を御諒承あつてできる限りの御芳志を傾けて頂きたく、こゝに各位に御寄附を懇請する次第である。

昭和二十七年九月一日

京都府立醫科大學創立八十周年記念事業委員會

委員長

勝

義

孝

## 式 辭

本日茲に多數の來賓並に學友の御臨席を頂き本學職員學生等と共に本學創立八十周年記念祝賀式典を催すことが出来まして誠に歡喜身に溢るゝ心地が致します 各位が御多用中に拘らず御來駕下さいましたことに對し厚く御禮を申し上げます

丁度今から八十年前の明治五年栗田口青蓮院に假療病院が設けられ醫師の養成が始められましたのが本學の濫觴でありまして其の後明治十三年に現在の土地に療病院が建設せられ明治十五年には甲種醫學校として認可せられ明治三十六年醫學專門學校に進み大正十年醫科大學に昇格し昭和十九年には女子専門部が附設せられ本年四月からは新制大學の發足を見て現在に到つております 新制大學に必要な施設の内從來本學に缺けていたものに綜合講堂と外科手術實習室とがありますが府民各位の御協力により綜合講堂は未完成とはいへ此の程度に迄工事が進み今日此の處で祝典を舉げることが出来まして我々は府民各位の御厚意を篤く感謝致しております 外科手術實習室は未だ地ならし工事がすんだだけであります但し明年度上半期中に完成して病院の中庭に威容を表わすものと期待をしております 尙今後病舎の増築教室並に研究所の設立等により昭和三十一年度よりの大學院設置に事を缺かぬよ

うにと焦慮致しておりますので今後とも府民各位の一層の御援助を懇望する次第でございます 何卒  
よろしく御願ひ申し上げます

本學八十年の歴史を顧みまして最も飛躍的に進んだのは大正十年の専門學校より大學への昇格の時  
期であります 此の時同窓各位の熾烈なる母校愛と多額の醸金とにより漸く之を爲し遂げ得たのであ  
りまして本學に縁ある者の常に銘記して置かねばならぬ事柄であります 今回の創立八十周年に當り  
ましても同窓が主體となつて記念事業委員會を結成し本綜合講堂設備の充實本學史料の編纂等を企畫  
致してあります 募金はもう一段御奮發を仰がねばならぬ状態にはありますが既に多額の御申込を頂  
き同窓並に本學關係者各位の御懇情を篤く感謝している次第であります

明治五年と現在との醫學の内容一般社會の狀勢を比較しますとそれこそ全く隔世の感が深く神話  
的にすら見えるのであります 然し時代の激しい變遷に拘らず人々の「健かにして命永かれ」と言う願  
いは全く變つておりませぬ 我々醫學醫術に勤しむ者は科學の進歩を取り入れ社會の狀勢に適應して  
かゝる萬人の望を叶えるように努めねばならないのであります

殊に本學に縁ある諸君は本學八十年の歴史多くの困難に遭遇し乍らも之を克服して來た誇を胸に抱  
いて其の聖なる業を國內は勿論外國迄も伸して頂き度いものと存じます 私は茲に本學創立八十周年

を共に壽ぐ意義の見出されるものと信じております

終りに臨み各位の御臨席を深謝致しますと共にお祭騒ぎにならぬようにと不斷いましめて來ましたことが或は行き過ぎまして御持成に不行届を來しておりはしないかと虞れております 何卒御海容願います 之をもちまして私の式辭と致します

昭和廿七年十一月二日

京都府立醫科大學

學長 勝

義 孝

祭 文

本日恭しく祭壇を設け本學及び本學前身たる療病院醫學校醫學專門學校の物故職員半井澄先生外四百八十餘名の靈をお祭りして御神慮をお慰め申し上げ度いと存じます 本學の創立以降八十年間の歴史は全く百難衆苦の記録であります 諸氏が熱血を傾注して其の衝に當つて頂きました御蔭で今日の本學が築かれたのであります 諸氏の功績は誠に顯著なものでございます 此の度創立八十周年を記念するに當りまして舉學一致校運の振興に邁進して諸氏の遺業を完うしようと誓つております どうか我々の此の心情と意氣とをお汲み取り下さいまして諸氏の靈が一層安らかに本學の上へ加護を賜りますよう一同を代表して敬つてお祈り申し上げます

昭和二十七年十一月三日

京都府立醫科大學長 勝 義 孝

